

## 他都市との比較および各専門機関の見解について

## 1 他都市とのむし歯本数の比較

- ・平成 28 年度末現在で、小学校におけるフッ化物洗口事業の秋田市の実施率は 90.4%、秋田県は 81.3%と全国的にも高い実施率である。
- ・秋田県は、佐賀県（93.8%）について 2 番目に高い実施率である。

## ○ 秋田市におけるフッ化物洗口事業の実施率

	参加人数（人）	在籍者数（人）	実施率（%）
23年度	13,859	15,688	88.3
24年度	13,429	15,367	87.4
25年度	13,192	15,087	87.4
26年度	13,229	14,857	89.0
27年度	13,131	14,528	90.4
28年度	12,993	14,365	90.4

## ○ 実施率の高い都道府県（小学校）

都道府県名	実施率
佐賀県	93.8%
京都府	71.0%
新潟県	65.4%
島根県	54.4%
熊本県	51.2%
宮崎県	46.1%

## □ フッ化物洗口の実施率の低い都道府県とのむし歯本数の比較

## ○ 12歳児（中学校1年生）のむし歯本数の推移

【単位：本】

	実施率 (小学校)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
秋田市	90.4%	2.00	1.70	1.50	0.90	0.90	0.90
石川県	0.0%	1.70	1.30	1.30	1.30	1.10	1.10
茨城県	0.0%	1.50	1.30	1.10	1.10	1.20	1.00
徳島県	0.2%	1.30	1.30	1.10	1.30	1.00	1.30
群馬県	0.6%	1.20	1.20	1.00	1.00	0.90	0.90
神奈川県	0.0%	0.90	1.00	0.90	0.70	0.70	0.70

「文部科学省 学校保健統計調査」

「NPO 法人日本フッ化物むし歯予防協会、WHO 口腔保健協力センター  
公益財団法人 8020 推進財団、一般社団法人日本学校歯科医師会」

共同調査

- ・秋田市では、フッ化物洗口事業の実施以降、むし歯本数は、着実に減少してきている。
- ・実施率の低い都道府県では、むし歯の本数は減少しているものの、秋田市と比較した場合、減少の幅は少ない。

## □ フッ化物洗口の実施率の高い都道府県とのむし歯本数の比較

### ○ 12歳児（中学校1年生）のむし歯本数の推移 【単位：本】

	実施率 (小学校)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
秋田市	90.4%	2.00	1.70	1.50	0.90	0.90	0.90
新潟県	65.4%	0.60	0.60	0.60	0.50	0.40	0.40
佐賀県	93.8%	1.00	0.80	0.80	0.80	0.60	0.70
京都府	71.0%	1.00	0.90	0.90	0.80	0.50	0.70

「文部科学省 学校保健統計調査」

「NPO 法人日本フッ化物むし歯予防協会、WHO 口腔保健協力センター  
公益財団法人 8020 推進財団、一般社団法人日本学校歯科医師会」

共同調査

- ・実施率の最も高い佐賀県では、平成 14 年度から小中学校で開始し、平成 20 年度に 12 歳児の一人平均のむし歯数が全国平均を下回り、全国トップクラスのむし歯の少ない県となった。
- ・昭和 56 年から県がフッ化物洗口を推進してきた新潟県では、平成 12 年に全国で一番むし歯が少ない県となり、こうした状況が今も続いている。
- ・新潟県が行った調査では、フッ化物洗口を行っていない生徒と 4 歳から中学校卒業まで継続してフッ化物洗口を行ってきた生徒を比較した結果、永久歯の一人平均のむし歯本数は、半分以下という結果がでている。  
(フッ化物洗口を行っていない生徒 9.4 本 4 歳から中学校卒業まで行った生徒 4.1 本)

## □ フッ化物洗口を行っている児童生徒と行っていない児童生徒とのむし歯本数の比較

【単位：本】

	小学校 6 年生		中学校 1 年生		中学校 3 年生	
	実施している 児童	実施して いない児童	実施していた 生徒	実施して いなかった生 徒	実施していた 生徒	実施して いなかった生 徒
25年度	1.1	1.1	—	—	—	—
26年度	1.0	1.1	0.9	0.9	—	—
27年度	0.8	0.9	0.9	1.0	—	—
28年度	0.8	0.4	0.8	1.0	1.3	1.6

- ・フッ化物洗口を行っている、行っていない児童生徒ともに、むし歯本数は減少してきている。
- ・フッ化物洗口を行っていることが、むし歯の予防に効果があることは、データから推測できるが、行っていない児童生徒の本数も減少しているのは、家庭、保護者のむし歯や歯の健康に対する意識の高さによるものと考えられる。

## 2 フッ化物洗口に関する各機関の見解

### (1) 秋田県歯科医師会HP（秋田県歯科医師会発行「歯ッピー通信」より抜粋）

- ・フッ素の摂取と効果については、50年以上にもわたる専門学会や専門委員会、政府、各種の国際機関および国際的な保健機関において幾度なく再評価され、証明されている。
- ・世界の150以上の保健関連団体がフッ素の安全性・効果を基にその利用を推奨している。
- ・日本においても、日本歯科医学会・日本口腔衛生学会・日本歯科医師会・厚生労働省などが、フッ化物の安全性を保証している。
- ・世界ではもちろん日本においても、むし歯予防にフッ素を用いることは、他の予防法に比べ、最も有効かつ安全・確実な方法として推奨されている。

### ※ 参考

- ・フッ化物の種類や使い方によって、むし歯予防効果は違う。  
永久歯のむし歯予防効果は、下記のとおり。
  - ① フッ化物入り歯磨剤 20～30%
  - ② フッ化物歯面塗布 30～40%
  - ③ フッ化物洗口 50～80% ⇒ フッ化物洗口が最も高い効果となっている
- ・フッ化物によるむし歯予防を推奨している保健団体

《推奨する世界の主な専門機関》	《推奨する日本の専門機関》
WHO（世界保健機構）	厚生労働省
F D I（世界保健機関）	日本歯科医師会
アメリカ医師会	日本歯科医学会
アメリカ歯科医師会	日本口腔衛生学会 ほか

(2) 平成23年1月21日付け、日本弁護士連合会「集団フッ素洗口・塗布の中止を求める意見書」では、フッ素洗口・塗布に関して、安全性、有効性、必要性等に関して、様々な問題があるとして、学校等で集団的に実施されているフッ素洗口、塗布を中止するよう求めている。これに対する各専門機関から数多くの見解が示されている。

### ① 一般社団法人 日本口腔衛生学会の見解（一部抜粋）

- ・世界の150を超える医学・歯学保健専門機関により「適切に行われるフッ化物のむし歯予防方法は、安全で、もっとも有効な公衆衛生的方策である」と合意されてきている。
- ・わが国においても、日本口腔衛生学会、日本歯科医学会、日本歯科医師会、厚生労働省、日本学校歯科医会により、フッ化物の集団応用が推奨され、その有用性が一貫して確認されている。
- ・国内外の広範囲な調査結果から、フッ化物洗口のむし歯予防効果は、時代背景やフッ化物配合歯磨剤の普及状況によって幅があるものの、30～80%の予防率が期待でき、有効であるとの評価がえられている。
- ・厚生労働省は「フッ化物洗口ガイドライン」（2003年）を示し、公衆衛生特性の高い地域単位での集団フッ化物洗口の有効性と安全性を確認し、推奨している。日本口腔

衛生学会はこれを全面的に支持するものである。

**② 社団法人 日本学校歯科医会の見解（一部抜粋）**

- ・科学的根拠に基づいたむし歯予防法であるフッ化物洗口やフッ化物配合歯磨剤の使用などのフッ化物の応用法は、その優れたむし歯予防効果は勿論、学校歯科保健教育の実践的手法として取り組まれる事により、児童生徒の正しい健康観の育成に役立ち、さらに学校歯科保健活動の活性化、保護者から地域社会へと地域保健への波及効果などが期待できる。

**③ 社団法人 日本歯科医師会の見解（一部抜粋）**

- ・う蝕予防におけるフッ化物応用の重要性は、その確立された有効性および安全性により、世界的にもWHO（世界保健機構）、FDI（国際歯科連盟）の他、150を超える専門機関により認められているところである。
- ・公衆衛生的な見地に立ったフッ化物応用は欧米諸国においても、う蝕予防・歯の喪失防止に欠かせない対策として講じられており、既に歯科保健・医療の維持に不可欠な要素となっている。

**④ 一般社団法人 日本小児歯科学会の見解（一部抜粋）**

- ・フッ化物のむし歯予防効果については、WHOも勧告を出して推奨している。厚生労働省も「フッ化物洗口ガイドライン」を公表しているように、その効果が明らかであることはエビデンスに基づいた判断と考えられる。
- ・こうしたことから、日本の子どもたちのむし歯予防法として、フッ化物の応用は極めて有用な手段であると結論づけられる。

**⑤ 一般社団法人 日本口腔衛生学会、一般社団法人 日本障害者歯科学会の見解**

**（一部抜粋）**

- ・国内外の広範囲な調査結果から、フッ化物洗口のむし歯予防効果は、時代背景やフッ化物配合歯磨剤の普及状況によって幅があるものの、30～80%の予防率が期待でき、今日もなお有効であるとの評価が得られている。

**⑥ NPO 法人 日本むし歯予防フッ素推進会議の見解（一部抜粋）**

- ・国内外の広範囲な調査結果から、フッ化物洗口、フッ化物歯面塗布のむし歯予防効果は、時代背景やフッ化物配合歯磨剤の普及状況によって幅があるものの、30～80%の予防率が期待でき、今日もなお有効であるとの評価が得られている。
- ・わが国において、フッ化物洗口を40年前から実施している地域からの報告によると、小児・学童期に経験した成人のむし歯は、全国平均に比べて半分以下の結果となっている。
- ・今日、わが国にでも小児のむし歯は減少、12歳児でも2本以下となった。しかし、先進国に比べ依然として高く、未だ先進諸外国の約2倍レベルにある。
- ・また、都道府県格差、個人格差も強く残っている。小児期に発生した1本のむし歯は、生涯にわたって増大し続ける負担となる。
- ・口腔の健康が全身の健康や生活の質に大きく関わっていることは医学専門機関の一致する見解となっている。
- ・今後とも、フッ化物洗口をわが国で普及する意義は高い。